

# サロン・あべの

Vol.113

## グループホーム生活を始めて4カ月

サロン・あべの10月の出会い

95年10月21日(土)午後1時から4時まで、育徳コミュニティセンター2階研修室において、サロン・あべの10月の出会いを開催した。

10月のパネラーは、「美智子のこんな話」でおなじみの岸田



岸田美智子氏

美智子さんである。今年の5月から、グループホーム「ほんわか」での生活を始められた岸田さんに、これまでの経緯なども交えながら、お話ししていた。

### これまでの生活

家族は、両親との3人暮らし。

養護学校を卒業後は、セルフ社に4、5年。その後、応援センターに7、8年参加するなど、様々な活動経験を経て、現在の「施設障害者外出サービスライフ・ネットワーク」の活動を始めた。

### 「ほんわか」を作った目的

両親の老化などに伴って、施設に入ることを余儀無くされる重度障害者。しかし、ライフ・ネットワークの活動から感じた、地域で生活をしたいという考え方を実現するため、グループホーム作りが始まった。

まず家を探すところから苦労をしたが、大阪市立大学に近い、住吉区遠里小野にグループホーム「ほんわか」が誕生した。

(「サロン・あべの」107、108号参照)

### 「ほんわか」の仲間

「ほんわか」で生活している

のは、田中さん、柴さん、岸田さんの3人と、泊まり介護の専従職員が1人。そのほか、2kmほど離れたところのアパートでも2人の仲間が生活をしている。田中さん、柴さん共に、施設で10年以上も生活をされて来たために、グループホームでの生活を作り上げて行くのが、なかなか難しく、話し合いを重ねながらの毎日である。

### 岸田さんの生活

月曜から金曜までは、「ほんわか」が自宅である。ここからライフ・ネットワークへ通っている。また、金曜から日曜にかけての週末は、両親の元へ帰っている。

ライフ・ネットワークのお休みである火曜日には、冷蔵庫の中を点検。3人分のメニューを考えて、買い物をしななければならない。しかし、そういった生活のすべてが勉強であり、この

新鮮な感覚は、家族といっしょでは得られないものでもある。

### 地域とのつながり

町会へは、引越した時点で自動的に会員になるもののように思っていたが、回覧板などが回ってこず、意地悪をされているように感じていた。しかし、自分達から入会の意思表示をして、会費を町会長のところへ持って行かないと入会できないことが分かり、やっと町会の一員になることができた。今では、

近所の人たちとも、あいさつが交わせるようになった。

### 利用制度と問題点

障害者が5人集まれば、グループホームが作れる。「ほんわか」のように別々に住んでいてもよい。年間813万円の補助が出るが、それだけでは足りず、介護者集めが大変である。しかし、個人で確保するよりは、まだましである。

グループホームは最終目的ではなく、地域で自立した生活をして行くための、ワンステップである。そのままグループホームでの生活を続ける人がいてもいいが、ここでの経験を元に、地域に出て行くためのものとしたい。

お話しの後、参加者からの質問に最後まで答えていただき、サロン・あべのの10月の出合いは幕を閉じた。

参加者17名。

(上平幸雄)

MERRY CHRISTMAS MERRY CHRISTMAS MERRY CHRISTMAS MERRY CHRISTMAS

### これからの「ほんわか」

## お知らせ

サロン・あべの12月の出合い  
元気いっぱい、笑顔いっぱいのクリスマス  
ゲスト=フォークソングの赤とんぼ、

手品の永堀さんほか

日時=12月2日(土)午後1時~4時

会場=育徳会館3階「幸分ホール」

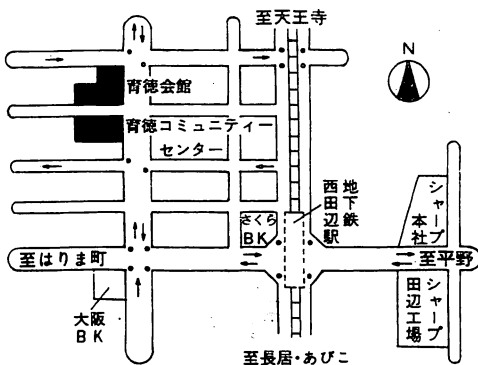
(阿倍野区阪南町5-12-5)

会費=2,000円

備考=軽食とお飲み物、そして、心ばかりのクリスマス・プレゼントをご用意しています。準備の都合がございますので、11月末までに必ずお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせ先

☎06-691-1028 (富田慶子)





### サロン・スペシャル亭

真夏日の余韻を思わせる快晴の日差しがサンサンと照りそそぐ、平成七年十月十四日(土) 大阪市東住吉区長居公園内の第二運動場において、市社会福祉協議会主催の「第十回ふれあいボランティアフェスティバル」が開催されました。

メインステージを中心に「ふくし広場」や「たいけん広場」「ふれあい広場」「ボランティア広場」「わんぱく広場」「展示コーナー」等、各セクションに分かれて、

さまざまなコーナーが設けられている中、△サロン・あべのVは、「サロン・スペシャル亭」の看板と幟に彩られたコーナーに、「サロン淀川」「ウイズ東淀川」グループの方々と共に参加しました。

サロン活動紹介を兼ねて、各々が持ち寄った品物を販売しました。

△サロン・あべのVは、サロングッズを販売しながら、サロン紙のバックナンバーをチラシ代わりに手渡して、PRにつとめました。

又、ボランティア紹介コーナーでは、サロン活動について「サロン淀川」の窪田氏「ウイズ東淀川」の鈴木氏、△サロン・あべのVからは上平氏がそれぞれのグループの紹介をしました。

この日は、多くの人たちに出会いました。久しぶりの人、懐かしい人もサロンを訪ねてくれました。その中にサロンのクリスマスでいつも旭さんと「美々(ビビ)シスターズ」のコンビを組んで、司会進行役をして下さっている吉岡さんが、砂田知美さんになつて幸せいっぱい笑顔で訪ねてくれました。



サロン・スペシャル亭

もちろんサロングッズの売れ行きも好調でした。

いろいろとご協力下さった皆様、ありがとうございました。



# 作る つくる 創る

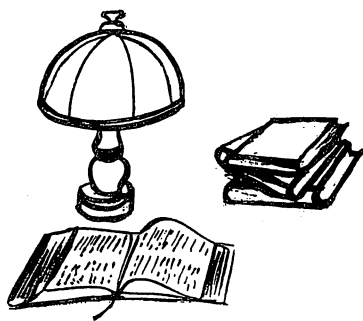
## 河合恵子

美しい本との出会い

「読書の秋」。先日、衛星第二放送で「美しい本との出会い 製本装幀家ティニ・ミウラ 谷村新司自選詩集を創る」が放送されました。

本というのは読むもの、書かれた内容が大切。しかし、本に施された美しい装飾を芸術として鑑賞する素晴らしい世界があります。それを創り上げるのが製本装幀家。日本では「モロッコ革の本」を書いた栃折久美子さんが知られています。ティニ・ミウラさんはドイツ・キール生まれ。スウェーデン・フランスで学び、ヨーロッパ・アメリカで活躍。一九七五年、ロンドンで三浦永年氏と結婚。翌年、来日した著名なひと。

一方、邂逅（思いがけなく、出会うこと）という言葉に魅かれると語る谷村新司氏は「昂」や「いい日旅立ち」など多くの曲でファンを魅了。



その谷村氏自作の詩をご主人に訳してもらったティニさんはそこに俳句や和歌に通じる素直な感情、宇宙とのつながり、孤独、期待などを感じながら、まず、紙選び。紙は福井県

今立町の岩野平三郎氏の手すき和紙。それに谷村氏は詩を手書きしていく。ティニさんは本の見返しやケース等に使うマーブル紙の製作にかかる。日本の墨流しと似た技法で大理石の

ような流れる美しい文様が生まれる。詩の書かれた紙は裁断され、一枚ずつ糸でとじて、形を整え、背表紙の上下に絹糸を丁寧に編んで花ぎれを取り付け、青い革の表紙を糊付け。表紙のデザインは夜空に輝く星々と色鮮やかな門。それは現実と詩想の世界を結ぶシンボル。旅、人生、移動、成長、直感的に言葉に導かれる心の動きなどのイメージを装幀という形で表現したティニさん。世界に一つしかない本。それは詩人と装幀家と感動的な出会いの世界でした。

連載二十五

# 高齢者と在宅介護

井元 真澄  
いもと ますみ

## 五 震災被災地域の住民生活実態

〔被災地における実態調査より〕(4)

### 《調査の結果》

#### 二 震災に際して受けた支援

前回までは、震災時に行った支援について、在宅生活者、仮設住宅入居者双方の結果をみてきました。今回より、「受けた」支援についてみていきます。

#### 【在宅生活者】

震災に際して受けた支援内容と、支援をしてくれた人について複数回答でたずねました。全体的な傾向をみると、「近隣の人から支援を受けた」のは、「給水場からの水くみ」が多く、「親戚から支援を受けた」のは、「食料や日用品の買い出し」、「給水場から

の水くみ」、「家のかたづけ」、「食料の炊き出し」などが多くなっています。さらに、「友人から支援を受けた」のは、「食料や日用品の買い出し」、「給水場からの水くみ」、「ボランティアから支援を受けた」のは、「食料の炊き出し」が多くなっています。なお、水くみや家のかたづけの支援は、高齢者やひとり暮らし世帯の者が多く支援を受けている傾向にありました。以下、詳しい結果を紹介していきます。

#### ①受けた支援・給水場からの水くみ

約四割の人が支援を受けています。「近隣の人から支援を受けた」が一九・五％と約二割、「親戚」一三・七％、「友人」一〇・三％、「ボランティア」は七・七％となっています。

近隣で助け合って水くみをし、親戚や友人が応援に駆けつけた様子が見えます。

#### ②受けた支援・食料の炊き出し

約三・五割の人が何らかの支援を受けています。

「ボランティアから支援を受けた」が一七・四％、「親戚」一〇・一％があがっています。「近隣」、「友人」はそれぞれ六％程度です。

#### ③受けた支援・食料や日用品の買い出し

約四割の人が支援を受けています。「親戚から支援を受けた」二三・七％、「友人」一四・〇％の二項目が多く、「近隣」の七・二％が続いています。

買い出しは、親戚や友人といった親しい人からの援助を受けていたと考えられます。

#### ④受けた支援・救助活動

対象が在宅生活者であることから、支援を受けたのは一割程度にとどまっています。

#### ⑤受けた支援・家のかたづけ

約二割の人が支援を受けています。  
 「親戚から支援を受けた」の二〇・四％が、  
 主な支援もとなっており、他は一〇・三％程  
 度にとどまっています。

家の中に入ることから、身内による援助の  
 割合が高いとも考えられます。

## ★心に傷を受けたら

もしも、身体が鋭い刃物で傷つけられ  
 たら、私たちは傷ぐちを手で強く押さえ  
 て、じつとずくまるだろう。そうすれ  
 ば、流れる血は少しでも少なくなるし、  
 傷ぐちも広がらない。手のひらで覆えば、  
 傷の痛みは自分の手の温かさを得て、わ  
 ずかでも和らぐような気になるのだ。

では、心に傷を受けたら、どうすれば  
 いいのだろう。締め付けられるような胸  
 に手をあてても、震える指先でまぶたを  
 押さえても、そこに心の傷はない。わめ  
 きながら、顔じゅうを探しても、心の傷  
 は、そんなところにはないのだ。それは、  
 私たちの身体の向こう側に、手の届かな  
 いところにある。

時間に追われるように私たちは、心に  
 傷を受けたまま、あれこれと日常の思い  
 に心をよせなければならぬ。それは、  
 傷ぐちが開いたまま、あちこちを歩きま  
 わるようなものなのか。仕事のなかの、

あるいは家庭生活のなかの乱れた言葉や  
 振る舞いは、傷ぐちが開いたままの心か  
 ら、覆われる手もなく、ぼたりぼたりと  
 落ちていく血の跡なのか。身体は笑みを  
 たたえ、小走りに駆けていても、その人  
 のわずかな動きや声の響きに、心の深い  
 傷ぐちが映ることがある。

身体の傷に自分の手をあてるように、  
 心の傷に手をあてるにはどうすればいい  
 のだろう。悔やんだり、自分を責めたり  
 することは、かえって傷ぐちを深めてし  
 まうかもしれない。くりかえし同じこと  
 を思いつづけても、心の痛みは和らぐこ  
 とはない。それとも、忘れたふりをして、  
 忙しく陽気に振る舞っていけば、自然に  
 傷は癒えていくのか。思いがけない自分  
 の刺のある言葉や、乱暴な振る舞いに、  
 自分の心の傷から流れてきた血の臭いを  
 感じることはないだろうか。

心の傷は身体の傷のように触れるこ



とができない。ぱっくりと大きな口を開  
 いた傷は、一見、無邪気な笑顔の裏にさ  
 え隠れている。小さな子どもが怪我をし  
 たとき、血の流れる傷ぐちに手をあてる  
 こともないまま、泣きながら歩いている。  
 心に傷をうけた人は、そんな子どものよ  
 うに時の流れを歩んでいるのだ。(知)

## 美智子のこんな話

岸田 美智子

元氣を出そうよ

最近、私の周りでは、二次障害などで手足のしびれや痛みなどで、寝たきりになってしまったり、家から出る元氣がなくなったりしている友だちが増えています。

この二次障害は、とても個人差がはげしく、その対処方法はまだまだ確立されていません。せっかく地域で自立生活を始めても、体をこわし、入院ばかりしている人もいます。もっと、毎日毎日を充実して、楽しくすごしてもらいたいのですが、どのように入浴バイスしてゆけばよいのか、とても難しいなど感じています。

健常者でも、仕事がなかったりすると、無氣力になったり、ノイローゼ気味になったりします。日々のくらしの中で大切にしたり、又、支えにして生きていけるものは、やはり、仕事か、家族のためという二つの要素が大きいと思います。

この二つのことが、障害者の生活からは、まだまだ奪われている部分だと思えます。

やりたい仕事も見つからず、結婚して家族も作れない状況を変えていけない限り、自立して障害者がいきいきと地域で暮らしていくのは、難しいのではないのでしょうか。

こんなことを考えていた私は、ILP(自立生活プログラム)の中の「私たちの権利」という文章に、とても共感を覚えました。

それで皆さんも一度読んでいただけたいと思います。

### ◆ 私たちの権利

ここでいう「権利」とは、社会一般でいう法律的な権利ではありません。もっと人間として基本的なこと、当然なこと、にもかかわらず、障害者にとって大切にされてこなかったことがらです。

ILPで、みんな考えて合う素材のひとつ

つになると思いい、ここに紹介しました。

① 自分がやりたいことをはっきりいってそれを優先する権利

いままでは——お母さんや介助者の顔色を見て、自分のやりたいことをひっこめてしまう。

② 自分がやりたいことを人を使ってやりそれを自分でしたことにする権利

いままでは——迷惑をかけてはいけなと思つて人に頼めない。

③ 能力のある平等な人間として尊重される権利

いままでは——障害があると自分の能力が低いもののように思つてしまう。

④ 危険をおかす権利

いままでは——お母さんや介助者に付き添われ、守られていた。

⑤ まちがえる権利

いままでは——まちがえることはばかなことだと思いい、だから自分は能力が低いと思つてしまう。

⑥ 自分だけの考えをもつ権利

いままでは——先生や親のいわれるままになつていた。賛成してもらえないと、

自分の考えがおかしいと思ってしまう。

⑦ 思うとおりに「はい」「いいえ」をいう権利

いままでは——人に気を使って自分の気持ちがいえない。

⑧ 気持ちをかえる権利

いままでは——いちどいったことを取り消すとなにかいわれると思い、取り消すことができない。

⑨ 「わかりません」「できません」という権利

いままでは——「わからない」「できない」というのは、能力がないことをいつてしまうようなことだと思ってしまう。

⑩ 楽をする権利、からだを気持ちよくする権利

いままでは——疲れることやしんどいことでも、がんばらなくてとはと、やっつてしまう。



海外からのお便り

Oct 6, 95

Dear Mrs. Kiiko Tomito:

I apologize to bother you.

Do you have any people whom like to write to me?

Happy Halloween!

Jam trying to find a friend who lives in Chiba City the letter has come back twice I do not want I dont want to write her...

I would still like to have a Japanese Pen Pal I will try to exchange exchange what information they may need.

I wish you a happy Halloween.

Sincerely  
Patti Teucky

アメリカのパティーさんより

.....  
親愛なる冨田慶子さんへ

長い間、ご無沙汰しています。

私と文通をしたい人はいらっしゃらないでしょうか。

ハローウイン おめでとう。

私は千葉県 of 友達を捜しています。手紙が二度とも帰ってきました。だから、もう書きたくないのですが。

でも、日本のペンパルと文通をしたいのです。彼らが必要としているかもしれない情報を交換してみたいのです。

あなたが幸せなハローウインを過ごせますように。

かしこ

パティー トラッキー





◎ 気軽に出かけられるまちに

和田 保子

こんにちは、いつも「サロン・あべの」紙をお送り下さり、ありがとうございます。この間、地下鉄西田辺の駅にエスカレーターが付いたそうですね。でも、エレベーターだったら、車イスの方とか松葉杖の方

は、もっと楽に出かけられるになあーと思っ  
てしまいました。

この間、梅田へ出かける折りに十三駅を  
探険しました。いつも利用する駅なのに、  
同じところではかり降りしていました  
ので、時たま車イスの方を見かけるので  
す  
が、どこからホームが上がってこられるの

かなーと不思議に思っていました。

子供に、「エレベーターがあるねんヨ」  
と言われて、一度見たいなーと思っていま  
した。改札口より、ずっと奥にエレベータ  
ーとエスカレーターがあり、いたれりつく  
せりでした。やはり、十三駅はわりと大き  
な駅なので、設備がいいのでしょうかね。  
また、阪急梅田駅のエレベーター乗り場  
も、ついこの間、発見しました。

これからは、体の具合の悪い人も楽に出  
かけられるようになってほしいですね。

おもしろい 姉ちゃん

天は我を見捨てず

スポーツの秋。いずみ学園  
でも、運動会がボランテニア  
の大学生の協力を得て開催さ  
れました。私も、パン喰い競  
争と紅白リレーに出場するこ  
ことになりました。

自分のチームのリレーのメンバ  
ーを見ると、私の担当の俊足の男の子  
が二人入っているではないですか。  
その瞬間、私の脳裏をかすめたのは  
「ヤッタ」ではなく「シマッタ」。  
抜かされでもした日には、バカにさ



れるに違いありません。

しかし、天は我に味方して、彼ら  
にバトンが渡るまでに、半周の差が  
開き、私は安心してドンジリでバト  
ンをもらい、ドンジリでバトンを渡  
したのであります。

田 淵 美登利

ま  
ま、すーっとお湯につかれます。  
私は若くて、まだ入れませんが、歳をと  
ったら、ぜひ来たいなーと思いました。

車椅子の病院

早く、出来たら・・・ネ

八木千尋

サロン・あべの紙一二二号が届きました。有難うございます。

車椅子の病院や補助具の事での問題のかずかず、少しでも早く、便利に改善されていくといいですね。

それと、「心の報い」の記事の中で、利己的でない愛は必ず報いられる、とか。何も考えず自分を捨てて、役に立てる人間になるという事は、本当に難しいですね。



寂しい秋の南の空に低くポツンと一等星『ホォーマルハウト』が輝いている。この星は「神の魚」や「魚の神様」に見立てられ、日本では、「南の二つ星」と呼ばれている。なにがなんでも「かるた」です。

解説 巻末P150頁

感謝します

カンパ、お茶菓子、さろん亭用の品々、袋、冊子等のご寄贈。

一筆箋、絵葉書等、お買い上げありがとうございました。

お礼を申し上げます。

大塚一枝、岡 賀寿子、金子花江、

阪田富子、猿田 博、田平雅之、

柳生幸子、吉田八重子、 (匿名五名)

朗読テープのご案内

山本敏子さんのご協力で、Aサロン・あべのV紙一二二号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一二二号の分があります。五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵||中川勝彦)、「ラジオたんぱ」六月四日(日)放送のAサロン・あべのV五月の出会い取材テープ(三〇分)もあります。いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

( ☎ 〇六六九一一〇二八 )



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」

○サロン淀川12月の出会い  
日時・12月17日(日)  
午後1時30分～3時30分

場所・淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」  
[大阪市淀川区三国本町2-14]  
内容・「サロンについて～フリートーク～」  
「やすらぎ」見学

会費・なし  
問い合わせ先・ ☎ 06-306-2900  
大阪市淀川区社会福祉協議会  
ボランティア・ビューロー

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.113[ '95.11.18 発行] 定価¥100。  
代 表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365  
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028  
表 題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子  
印 刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F  
TEL 06-719-8212 FAX 06-719-8213